

調査概要

1．調査の目的及び方針

広島市内における雁木の歴史性調査に当たり専門家にご意見を伺ったところ、雁木自体の調査によって年代を確定することは難しいため、雁木が築かれている護岸の年代を確定することによって、間接的に雁木の年代を確定することが適当であるとのことご指摘を頂いた。そのため、雁木の歴史性調査は護岸の年代確定を一次的な目的として、文字資料・写真資料といった間接的な資料の収集・分析と、実際の現地調査の両方を並行的に進め、それらの成果を総合することで、雁木の科学的・実証的な考察を行うことを最終的な目的とした。しかしながら、資料収集は時間を要する作業であるため、今年度は現地調査のみをまず行うこととなった。

2．調査対象範囲

調査の対象となる範囲は、京橋川における稻荷大橋から栄橋の間の右岸（西岸）である。この範囲には、以前から古い護岸が残存しているとの指摘があり、またその護岸は短い範囲ながら景観的にも一律ではなく、変化に富んだものとなっている。調査方法の確立していない段階にもかかわらず、少ない調査時間の中での比較考察が可能であることから、今回の調査対象範囲として選定した。

3．調査方法

調査は干潮時に干潟を歩いて護岸の石積みを肉眼で観察し、直接触ることによってそれぞれの石積みの特徴を確認した。具体的には、まず現地調査において、護岸の石積みの明確な境目や特徴の相異などから、どの地点からどの地点までが同じ石積みであるかを確認し、同じ石積みの範囲を区間として特定した。その際に、特定した区間のどちらがより古く、より新しいかといった相対的な順序を、現在護岸の石積みが築かれている状況や積み石の加工程度から観察した。次に、現地調査で得られたデータを整理・分析して、各石積み区間を年代順に並べ、それによって調査対象範囲における石積み区間の相対的な年代区分を確定した。同時に、石の積み方やその積み石自体の形・大きさ・色・加工の程度などの観点から、年代区分ごとの石積み区間の特徴を明確化することを行った。

4．調査結果

今回の調査により、京橋川における稻荷大橋から栄橋の間の右岸（西岸）には明治時代以降の古い石積み護岸及び雁木が広い範囲に渡って残存していることを確認することができた。また、その石積み護岸及び雁木は全て一律ではなく、多様な形式を示していることが判った。

「おわりに」

京橋川における稲荷大橋から栄橋の間の右岸（西岸）は、近代の古い石積み護岸及び雁木が都市圏において残存し、現在も活用されているという点で他例が少なく、歴史的な価値は大きいと考えられる。また、築造年代が異なると推測される多様な石積み護岸が近接しており、土木遺産における石積み護岸の推移と多様性を示し、比較考察の点からも一括した優れた資料である。さらに、石積み護岸及び雁木の中には非常に高い精度を持つ、鑑賞に堪えうる物も見受けられ、文化財としても貴重であると考えられる。

本来であれば、これに続く段階として、収集した文字や写真資料により、各石積み区間の絶対的な年代を確定することが望ましい。しかしながら、先述したように今年度の調査では時間の都合から資料収集が不十分であり、一面的な考察となってしまう感はぬぐえない。すべて、今後の課題としたい。

凡例として

連続写真の護岸石積みを垂直方向に区切っている（色線）が、同じ石積みが続く区間であり、写真中の番号は、解説写真の番号である。連続写真の下の（色線 or 色リボン？）は各石積み区間の相対的な年代を示しており、その順序は次に示す通りである。カウンター上の解説写真を見ながら、皆さんもご自身で比較してみたい。